

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500091		
法人名	下地診療所合同会社		
事業所名	グループホーム来間		
所在地	沖縄県宮古島市下地字来間189-3		
自己評価作成日	令和4年8月23日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=4795500091-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=4795500091-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 10月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、及びその家族と職員の垣根を低く、同じ目線で、思いを共有して過ごしていけるようにしている。心身の機能向上や、毎日のプログラム等ばかりに焦点を合わせることなく、毎日を人間らしく、その人らしく、自宅で過ごしているようなゆったりとしたペース、ゆったりとした気持ちで過ごせることに重点を置いている。常にお客様とスタッフ、介護する側とされる側といった間柄ではなく、お互いに共同生活体の一員として、良い意味での対等な雰囲気づくりを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中、地域との付き合いはコロナ前と同じとは言えないが、来間島という住民同士の顔が見える環境のためか、コロナ感染防止に努め近隣住民との付き合いはこれまで通り継続されているが、地域行事への参加は難しい状況にある。かかりつけ医は、法人本部の診療所が担っており、24hの緊急時対応もできる体制となっていて家族にも安心感がある。事業所は有給休暇が取得しやすい勤務シフトを組むなど、職員の働く環境整備を行い、ハラスメントマニュアルも整備され勤務体制や就業環境の整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、事務所内に掲示し、常に目に見えるようにしている。 通常は、かみ砕いて理解された共通認識となっており、様々な場面での、ケア方針の決定のベースとなっている。	事業所の会議体は月2回で、中旬の「介護ミーティング」、月末の「レビューミーティング」が行われている。日々の申し送りや情報共有については、朝夕のミーティングで行い、理念の確認や問題点の対応等については、月2回のミーティングにおいて話し合いが行われ運営に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	来間島高齢者やその家族にはしっかりと認識され、入居の検討や申し込みが非常に多い状況である。 以前、入居されていた方の親戚関係の方の入居や申し込みも多く、繋がりが継続していくこともある。	コロナ禍のため、地域との付き合いは以前と同様には行えないが、来間島という住民同士の顔が見える環境のため、コロナ感染防止に努めながら近隣住民との付き合いはこれまで通り継続されている。現在、地域行事への参加は難しい状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談などで関わった家族等に対し、なかなかすぐに入居受け入れは出来ないが、しばらくの間、どうすれば、家族や本人がより良く過ごしていけるかのアドバイスをを行うことが多い。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、書面開催となっている。メンバーの家族や知見者とは、立ち話での情報交換を行っている。	コロナ禍の折り書面開催で2か月に1回開催し、議事録は運営推進会議委員に送付し意見等を吸い上げているほか、家族面会は玄関先や窓越しで行われていて、管理者は感染予防対策をしながら来訪の家族に対して積極的に話かけを行い意見を運営推進会議に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報には、常に目を通してしている。各種アンケートなどには、積極的に協力している。 また、コロナ予防接種の取材依頼を受入れるなど、積極的に協力を行っている。	コロナ禍であることから、運営推進会議へ行政の参加はないが、行政からの情報提供やアンケート調査の協力依頼について取り組んでいて関係継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修は、毎年行っている。身体拘束となる具体的な行為をしないことは、もちろんとして、人のお世話をする心構えとして、思った通りに行動させる(行動させない)、管理するといった考えを持たずに、相対することを啓蒙している。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回実施されており、身体拘束適正化に関する指針、マニュアルが整備されている。研修も適正化委員会を利用して実施し研修内容の理解を図るため「身体拘束小テスト」を行い、職員の理解力向上に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修は、毎年行っている。積極的な虐待の意思はなくとも、言葉遣いや介助の方法などが、虐待であったり、虐待へ発展しかねないので、日頃から啓蒙を行っている。	高齢者虐待防止に関する研修会を年1回実施し、職員の理解を深めている。管理者は虐待に繋がる言葉使いがみられた場合は都度注意をし、月2回の定例ミーティングの場でも事例を発表し職員間の情報共有を図り、運営に反映している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修は、毎年行っている。日常生活自立支援事業は、現在の入居者の中に利用されている方もいる。後見制度については、制度の存在を知っており、相談者がいた場合には、しかるべき機関に繋げることが出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階から、おおよそ費用や、入居条件についての説明を行い、見記入の重要事項説明書を手渡し、あらかじめゆっくりと目を通してもらっておくようにしている。本契約時には、再度説明を行い、特に気になる場合の多い、入居費用、退去となるケース、看取りなどはわかりやすい言葉で、説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けたり、市役者や国保連の担当窓口を紹介したりしている。利用者やその家族とのコミュニケーションを大切に考え、面会や差し入れ時には、なるべく立ち話を行うようにし、ざっくばらんな雰囲気から、意見要望を言いやすい環境づくりを目指している。	コロナ禍の中、家族面会は玄関先や窓越しで行われているが管理者は感染予防対策をしながら来訪の家族に対して積極的に話かけを行い意見を運営に反映している。今後はコロナ感染の鎮静化を睨み、疎遠がちになっている関係の再構築に取り組むこととしている。	家族の顔が見える狭い地域環境のため、これまで家族向けの広報は発行していなかったが、これを機会に事業所からの情報発信に積極的に取り組むと共に、関係修復のための準備のためにも家族向けに満足度アンケートを行うなど、コロナ禍後を見据えた取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開き、意見や提案を聞く機会を設けている。職員間においても、随時、雑談などからあがってくる情報や、話せる雰囲気大切にしている。 何かをやってみようという意見は、積極的に採用し、活発な状況を維持している。	管理者は朝夕のミーティングや月例ミーティングの場で職員からの意見に積極的に応えることを心掛けており、年2回の人事考課の場でも1対1で職員と向き合い、職員からの意見や管理者からの要望を伝えることで事業所の運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況、勤務態度等は、管理者・代表者が把握している。 給与・各種手当や休暇などの条件は、出来るだけ良好に整備している。休暇取得については、各人それぞれの希望をかなえられるようなシフト作りと、人間関係づくりに努めている。	事業所は夜勤勤務者の年2回の健康診断実施のシフト調整や有給休暇が取得しやすい勤務シフトを組むなど、職員の働く環境整備に努めている。 ハラスメントマニュアルも整備され勤務体制の整備に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの勤務態度や能力、特性、キャパシティ等は、管理者・代表者が把握している。 社内での研修を行ったり、適宜、注意、助言を行うことで、サービスのバランスを維持しながらのレベルアップ、適正化を図っている。 資格取得の場合には、学費負担制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者同士での情報交換を行っている。 隣接する事業所での研修を行っており、お互いの事業所での日中活動でのヒント、サービスの向上にも役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの初期、導入段階には、なるべく細やかに話を聞くようにし、戸惑っている利用者に寄り添えるようにしている。なかなか本人の希望通りにいかないことが多い場合にも、“話を聞く”という時間をとれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の関係や、その経緯などを聞き、これまでどんな気持ちで介護してきたか、どんなに大変だったかということもしっかり聞くようにしている。これまでの経緯、思いを聞き取った上で、今後は、何が心配で、どうなっていった欲しいかを聞きとることが、家族にとっても安心感につながり、より良い関係づくりに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には、入居出来るか出来ないかに関するだけでなく、現状の困りごと全般を聞き出し、入居以外の解決方法等を紹介している。介護保険の一般的な流れや、各種サービスについての説明や、必要であれば本人の希望とマッチしそうな事業所等の紹介を行ったり、直接繋がったケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実際の行動としては、職員が利用者を介助、介護することに違いはないが、精神的には、人生の先輩であり、地域のおじさん、おばさんといった、社会の一員同士といった感覚を持ち続け、横に座り、世間話のようなとりとめのないおしゃべりをしたり、肩をさするなどの適度なスキンシップなども取れ入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関わり方も様々であるが、画一的なものを押し付けず、それぞれのペースを尊重している。家族との関係も重視し、一緒になって本人を支えていけるように取り組んでいる。		
20	(10)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、家族、地域の人なども訪ねて来ていたが、最近では、コロナの影響で、少なくなっている。関係を完全には断ち切らないように、濃厚接触とならないように工夫しながら、やっている。差し入れをいただき、食事やおやつで食べたりすることもある。	コロナ禍の折り、馴染みの人との関係が希薄になりがちであるが、来間島という狭い地域環境のため近隣との関係継続は繋がっている。管理者は近隣に出かける際には歩いて出ることを心掛けて、顔なじみの方々に声掛けを行うなど関係継続に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は、入居前から知り合いだった方などもいるが、介入が必要な場合を除き、自然体で過ごしてもらっている。それぞれの利用者が、緩やかな仲間意識を持ち、気にしあって生活出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、顔見知りとして、地域の資源として関係性を維持するようにしている。本人は退去されても、また別の家族の入居相談を受け、支援することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向は、日々のやり取りなどから、常に把握するように努めている。認知症により、現在の状況の理解が出来ず、なかなか実現が難しい希望を持つ利用者には、否定せず、傾聴に努めるようにしている。	入居者は隣接する同じ法人のデイサービスからの転入者が多く、入居時の情報はデイサービス利用時から継承がされていることから、本人の意向や思いについてデイサービス職員を交えて把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴は、入居前にヒアリングした上で、入居後に本人や家族との雑談の中から追加情報を得るようにしている。入居前のサービス事業所での情報や、近所からの評判など、入居前のエピソードも含めて、本人像を形成していくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況は、記録や申し送りなどで共有している。特に体調を崩している人や、変化が見られている人と等は、感度をあげて様子を把握するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を元にしたモニタリングを毎月行い、現状の把握とより良いケアに対する、アイデア等を話し合っている。モニタリングの場では、職員それぞれが感じたり、利用者や家族などからの情報などを共有し、意識合わせを行っている。	月例の介護ミーティングの場を中心に介護計画について職員全員で検討を行い、モニタリングについては「レビューミーティング」において情報を共有することで介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとの日々の様子等は、個別記録に記入するとともに、口頭によって伝達されている。ケアの実践、工夫、その時の結果等は職員間で共有され、次回の介護計画に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のそれぞれの状況に応じて、出来るだけ、ニーズが実現できるように、柔軟に対応している。既存のサービスメニューに捉われない、インフォーマルな力なども活かし、その人にとって、物事が”上手いく”ように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域との関わりは疎になっているが、台風時には、橋の開閉の連絡をもらうなど、必要な地域資源ネットワークは活用している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は、非常にスムーズに行っている。家族の代わりに受診に付き添うなどして、素早く対応できるようにしている。	かかりつけ医は、法人本部の診療所が担っており、定期往診は2回/月、看護師の訪問は3回/月を基本としているが、24hの緊急時対応もできる仕組みとなっている。健康情報は毎月、訪問診療報告書により職員間で共有されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の間に壁等はなく、利用者の健康状態や薬のことだけでなく、一般的な処置や薬についてなど、些細なことでも気兼ねなく相談できるような雰囲気を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合には、家族だけでなく、管理者も入院前の受信に立ち会うようにしている。また、主治医からの紹介状も必ずもらい、病院側に利用者の情報がしっかりと伝わるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、看取り、重度化・終末期の対応について、必ず意向を確認している。これまで、考えたことがない人の場合には、考えるきっかけとしてもらい、基本的な知識や、考えておくべきことなどを説明するようにしている。	看取り、重症化・終末期の対応については入居時に終末期の迎え方について意向調査を「最後のときを」シートにまとめ、本人との間で確認を行っている。その後も身体状況の変化に応じて、都度本人・家族へ説明と確認を行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時にはグループ内の医療機関へ連絡を行い、その都度指示をもらうことになっている。怪我等の初期対応は、看護師や経験のある職員から、経験の浅い職員へ、口頭や実戦で普及するようにしている。	ヒヤリ・ハットに関する情報を職員が管理者に気軽に出せるように、管理者は「インシデントレポート」(気づきシート)を共用スペースに用意している。インシデントレポート情報は月例の介護ミーティングの場で取り上げ、情報の共有に努め運営に反映している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年に2回、防災訓練を行っている。日中想定の際は2名、夜間想定の際は1名の最低の人数を想定している。地域とは、毎年台風が来ることで、お互いに連絡を取り合う関係が維持できている。	防災訓練は年2回テーマを決めて実施されていて訓練後の問題点や課題が整理されているが、次の訓練では前回の問題点や課題がテーマとして継続されておらず、一貫した訓練とはなっていない。感染症に関する研修も実施され、運営に反映されている。	防災訓練は事業所にとって重要な訓練でもあることから、前回の課題解決をテーマにした、継続性のある訓練の実施に期待したい。



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的でなく、その人その人の性格を考慮して、声掛けの方法等を変えている。 何が正しいかよりも、どうすれば一番心にストンと落ちるか、言葉だけでなく、表情、態度なども含めた対応を考えるようにしている。 きつい言い方になってしまったりした場合には、フォローの声掛けも大切にしている。	管理者は入居者のプライバシー確保について、問題な発言や態度が散見された場合は都度注意を行い、職員間で共有すべき問題については、月例ミーティングにおいて情報共有を行い運営に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自分のペースでゆっくりと毎日を過ごせるような雰囲気づくりを行っている。 日常生活の中では、強い希望のある場合はほとんどないが、ホールと自室の行き来などは、本人のペースを尊重し、リズム作り等、促しが必要な場合にも、自己決定出来るような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通常、それぞれの利用者のペースは把握して対応している。特別に、いつもと違うペースで過ごしたい場合があった場合には、心身の状態を注視しながら、希望に沿って過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段も小綺麗な状態で、過ごせるように支援している。あまり、気にしている利用者はいないが、最低限の清潔感と身だしなみが維持できるようにしている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	画一的ではなく、各自が食べやすい、食事形態や盛り付け方法を取っている。皿、スプーン、お椀など、介護用の使いやすいものも、取り入れて、出来る限り自力で摂取出来るようにしている。下膳を手伝ってくれる利用者もいる。	食事は3食手づくりで調理されていて、職員も一緒に味わい、食事を楽しむためのコミュニケーションに役立っている。入居者は下膳、配膳など入居者の状態に応じて自身が出来ることに参加をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	みんなで一緒に食事をする中で、食が進んだり、意欲を維持することが出来て、栄養状態は良好に過ごすことが出来ている。 水分が取りにくい人や、食欲が減退してきている人などは、おやつなども含めて、別途の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状況に応じた口腔ケアを行っている。 自分で行う習慣がある場合には、出来るだけ継続できるような促しや一部介助を行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る限り続けられるように支援している。オムツ内、パッド内での排泄が増えてきても、ある程度安全な誘導が出来る限りは、トイレに座ってもらうようにすることで、何度かに1度はトイレ内での排泄が出来ることも多い。リハビリパンツとテープ式オムツ、パッドのサイズなども、その時々で使い分けをしている。	入居者個々の状況を観察し、一人ひとりに合わせた最適なパッドを選択し、昼夜の区別を考慮しながら使用することを心掛けている。排泄シートを参考にしながら、トイレでの排出ができるように先回りケアに務めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、野菜や海藻を多めに摂ったり、咀嚼が十分でない場合には、食事形態を工夫したりしている。 服薬コントロール時にも、毎日の排泄状況を確認し、調整をしている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきで誘導している。入浴は、保清のためだけでなく、リラックス出来る時間としての役割も重視している。表面上拒否する場合にも、入浴後には気分よく過ごしている様子等から、入浴そのものを嫌がっている訳ではないと判断し、誘導の工夫により、入浴の機会を減らさないようにしている。	2日に1回の午前中の中の入浴支援を基本とし、更に入浴を希望する者や体調により入浴がすすまない入居者にも柔軟に対応している。保清だけが目的の入浴だけではなく、リラックスできる入浴となることも職員間で共有し、取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな場所で、好きなように休息を取ってもらうようにしている。1日のリズム作りとのバランスもあり、必要に応じて、活動を促したりもするが、程よい程度となるように配慮している。 安全確保等の観点から、共有スペースで休んでもらう場合もある。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な薬を確実に服薬できるように支援している。服薬を嫌がる場合にも、工夫をすることで、何とか服薬できるようにしている。 体調の変化などが見られた場合には、主治医へ報告を行い、服薬の調整等の対応の指示をもらい、対応している。	服薬管理マニュアルが整備され、管理者、職員間で服薬手順について情報が共有され事故のないように履行されている。 体調の変化がみられた場合は法人本部の診療所の医師の指示を速やかに受ける体制にある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響により、利用者同士のやり取りは、以前ほどは活発に行えないが、出来るだけ自由な雰囲気でも過ごしてもらっている。 一部、洗濯物たたみ等、自分の役割として、続けている利用者もいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ感染防止のために外出は、出来るだけ控えている。 本来であれば、景色や花を見たり、祭りを見たりしに出かけることもある。	コロナ禍の折り、これまで通りの外出は自粛しているが、できる範囲で外気浴の支援を行っている。 コロナ禍以前は、月1回のドライブで花見や海に出かけたり、併設のデイサービスとの交流も行われていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭の管理は家族にお願いしている。本人の希望でお金を所持している場合には、トラブル防止のために注意して見守るとともに、買い物の代行などを行う場合もある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、希望がある時には、本人に代わり、自由に話してもらっている。本人側から、電話をかけたい希望がある場合には、施設側からかけたり、都合の良い時にかけってもらうように手配するなどして支援している。手紙や差し入れなども、随時受付しており、本人に届くようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主な共用スペースであるホールは、皆が集えるような雰囲気作り、習慣作りを心がけている。就寝時以外のリラックス時には、自室よりも、ホールで過ごすことを好む方も多い。清潔で片付いていることを心がけ、極端な装飾や、音、光なども適度に保っている。大きな時計とカレンダーを貼っており、見当識の助けとなっている。	コロナ感染の防止に心掛け、食後のテーブルなど必要な箇所を都度消毒することを心掛けている。共用スペースには一段高いところに畳敷のスペースがあり、入居者の寛ぎの場ともなっている。建物の構造から採光も十分あり明るい空間で快適に過ごせるように配慮がされている。	コロナ禍の折り、感染防止マニュアルに則り手すりやドアノブなど、入居者が触れる部分の消毒は都度気づいた時に行うのではなく、定期的に行うよう取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、どの利用者自席で過ごすことが多い。但し、歩き回ったり、ソファや畳間を使うなども制限せず、自由としている。利用者同志、または職員と仲良く過ごしたりする場合もある。利用者同志の相性等、介入が必要であれば行うが、むやみには介入しないようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や家電類の持ち込みは、基本的には自由としている。入居後に、家族(孫など)から、プレゼントとして、飾り物等が置かれるようになることもある。あまりエアコンは使わずに過ごそうとする方が多いので、寒すぎず(暑すぎず)、ちょうどよい程度に調整をしている。	居室内は、洗面台とクローゼット、エアコンが備え付けられている。入居者はこれまでの生活の継続ができるように、自室への持ち込みを自由としており、好みの居室でいられるように配慮されている。室内の温度も好みに合わせこまめに調整を行い快適に過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーであり、また廊下は一本だけで、わかりやすい構造となっている。部屋の入り口には、入居時に本人が選んだ、イラスト入りの表札をかけて、認識しやすいようにしている。トイレ、風呂場など、生活の中での動きは、自力で移動できない方でも認識出来ている様子である。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	コロナ禍の折り、感染防止マニュアルに則り手すりやドアノブなど、入居者が触れる部分の消毒は都度気づいた時に行うのではなく、定期的に行うよう取り組みに期待したい。	定期的な消毒を行う。	1.消毒箇所の洗い出し 2.消毒時間の設定 3.チェックリストの作成 4.実施	1ヶ月
2	35	防災訓練は事業所にとって重要な訓練でもあることから、前回の課題解決をテーマにした、継続性のある訓練の実施に期待したい。	前回の気づきを生かせるような訓練の実施。	1.訓練実施前に、前回の結果を踏まえた目標を定めておく。  (10/31実施の訓練で実施済。)	1ヶ月
3	10	家族の顔が見える狭い地域環境のため、これまで家族向けの広報は発行していなかったが、これを機会に事業所からの情報発信に積極的に取り組むと共に、関係修復のための準備のためにも家族向けに満足度アンケートを行うなど、コロナ禍後を見据えた取り組みに期待したい。	発行物をご家族に送付し、日頃の事業所運営の理解を深めてもらう。	1.運営推進会議資料をご家族へ送付するようにする。 2.会議資料中の写真の枚数を増やす。 3.ご家族向けアンケートの実施。	5ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。